

友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約

大日本帝國政府及「ブルガリア」王國政府ハ

幸ニ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ嚴肅ナル文書ニ依リテ確認シ且之ヲ強固ナラシメンコトヲ欲シ
兩國ノ文化關係ヲ増進セシメ且之ニ依リ兩國國民ノ相互的理解ヲ深カラシムルノ希望ニ均シク促サ
レ
左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

兩國政府ハ兩國間ニ存在スル友好及相互的信賴ノ關係ヲ茲ニ再確認ス

第二條

兩國政府ハ兩國ノ文化關係ヲ能フ限り増進スベク之ガ爲最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルベク且十年間有效トス本條約ハ兩國政府ノ一方ガ本條約滿了ノ六月
前之ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セザル限り暗黙ノ更新ニ依リ一年ツツ延長セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

二

昭和十八年

月

日即チ千九百四十三年

月

日

ニ於テ本書ニ通テ作成ス

昭和十八年二月二十三日 印刷

88
(昭和十八年一月二十三日印刷)

IMT 670

94

vernements ne notifie à l'autre six mois avant son expiration son intention d'y mettre fin.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés par leurs Gouvernements respectifs, ont signé la présente Convention et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire à _____, le _____ jour du _____ mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 1943.

**CONVENTION D'AMITIÉ ET DE COLLABORA-
TION CULTURELLE ENTRE LE JAPON
ET LA BULGARIE.**

Le Gouvernement Impérial du Japon et le Gouvernement Royal de Bulgarie,

Voulant confirmer et consolider par un acte solennel les liens d'amitié qui existent si heureusement entre les deux pays ;

Également animés du désir de développer les rapports culturels des deux pays et d'approfondir ainsi la compréhension mutuelle des deux peuples ;

Sont convenus des dispositions suivantes :

Article Premier.

Les deux Gouvernements constatent et confirment les relations d'amitié et de confiance mutuelle qui existent entre les deux pays.

Article 2.

Les deux Gouvernements développeront, dans la mesure du possible, le rapprochement culturel entre les deux pays et s'y assureront leur collaboration la plus étroite.

Article 3.

La présente Convention entrera en vigueur dès sa signature. Elle aura une durée de dix ans. Elle sera prorogée par tacite reconduction d'année en année à moins que l'un des deux Gou-

極
秘

CONVENTION D'AMITIÉ ET DE COLLABORA-
TION CULTURELLE ENTRE LE JAPON
ET LA BULGARIE.

後日添附

秘

友好及文化的協力ニ關スル日本國ヲブル
ガリア「國間條約締結ノ件審査報告

謹デ今回御諮詢ノ友好及文化的協力ニ關スル
日本國ヲブルガリア「國間條約締結ノ件ヲ審査ス
ルニ「ブルガリア」王國ハ其ノ建國ノ歴史ト民族
的關係トニ因リ強キ親露的傾向ヲ有シ之ガ爲
「聯邦トハ今尚友好關係ヲ保持シ他方政治的
ニハ獨逸國ト密接ナル關係ヲ有シ現ニ日獨伴
三國條約ノ一員トシテ米英兩國ト戰爭狀態ニ
在リ帝國ト勃國トハ昭和十四年以來相互ニ公

使ヲ交換シ又同國ハ昭和十六年滿洲國及中華
民國國民政府ヲ承認シ日勃兩國ノ親善關係ハ
近年頓ニ敦厚ヲ加ヘツツアリ然ルニ大東亞戰
争勃發シ皇軍ノ赫々タル戰果ヲ擧グルヤ勃國
ノ帝國ニ對スル信賴ノ念ハ愈々増大シ其ノ結
果勃國政府ヨリ帝國政府ニ對シ兩國間ノ友好
關係ヲ一層促進スル意圖ヲ以テ條約ヲ締結ス
ルコトヲ希望シ來レルガ帝國政府ニ於テハ
之ニ應ズルコトニ因リ帝國ガ樞軸ノ與國ト密
接ナル聯繫ヲ保チテ米英ニ對スル一致團結ノ

態勢ヲ示スニ有效ナルノミナラズ勃國が獨ソ
兩國間ニ介在セル關係上情報蒐集ニ便益アル
コトヲ思ヒ之が締結ニ同意シ爾來其ノ案文ニ
付兩國當局者間ニ商議ヲ重ネタル結果茲ニ本
件條約ノ成案ヲ得ルニ到レリ
本條約ハ其ノ前文ニ於テ日本及ブルガリア兩
國ハ兩國間ニ現存スル友好關係ヲ嚴肅ナル文
書ニ依リテ確認シ且之ヲ強固ナラシムルコト
並ニ兩國ノ文化關係ヲ增進セシメ且之ニ依リ
兩國國民ノ相互的理解ヲ深カラシムルコトヲ

希望スル旨ヲ掲ゲ其ノ本文ニ於テ兩國政府ハ
兩國間ニ存在スル友好及相互的信頼ノ關係ヲ
再確認シ(第一條)兩國ノ文化關係ヲ能ク限リ増進
スル爲最モ緊密ナル協力ヲ爲スベキモノトシ
(第二條)本條約ハ署名ト同時ニ實施セラレ十年間
有效トシ其ノ期間滿了ノ六月前兩國政府ノ一
方ガ之ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セ
ザル限リ暗黙ノ更新ニ依リ一年ツツ延長セラ
ル旨(第三條)ヲ協定スルニ在リ
按ズルニ本件ハ日勃兩國間ニ於テ友好關係ヲ

益々敦厚ナラシメ其ノ協力ニ依リ文化關係ヲ
愈々發展セシメントスルモノニシテ現下ノ時
局ニ鑑ミ其ノ趣旨ニ於テ妥當トスベク其ノ條
項ニ付テモ亦別ニ支障ノ廉ヲ認メズ仍テ本件
ハ此ノ儘可決セラレ然ルベシト思料ス
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十八年二月四日

樞密院書記官長堀江季雄

樞密院議長原 嘉道殿

極
秘

友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約

友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約

大日本帝國政府及「ブルガリア」王國政府ハ

幸ニ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ嚴肅ナル文書ニ依リテ確認シ且之ヲ強固ナラシメンコトヲ欲シ

兩國ノ文化關係ヲ増進セシメ且之ニ依リ兩國國民ノ相互的理解ヲ深カラシムルノ希望ニ均シク促サ

左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

兩國政府ハ兩國間ニ存在スル友好及相互の信頼ノ關係ヲ茲ニ再確認ス

第二條

兩國政府ハ兩國ノ文化關係ヲ能フ限り増進スベク之ガ爲最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セラレベク且十年間有效トス本條約ハ兩國政府ノ一方ガ本條約満了ノ六月前之ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セザル限り暗黙ノ更新ニ依リ一年ヅツ延長セラレベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

二

昭和十八年 月 日即チ千九百四十三年 月 日 二於テ本書ニ通ヲ作成ス

(昭和十八年二月二十三日 印刷)

IMT 678

106

昭和十八年二月二十三日 印刷

IMT 678

107

vernements ne notifie à l'autre six mois avant son expiration son intention d'y mettre fin.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés par leurs Gouvernements respectifs, ont signé la présente Convention et y ont apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire à _____, le _____ jour du _____ mois de la dix-huitième année de Syōwa, correspondant au 1943.

888

**CONVENTION D'AMITIÉ ET DE COLLABORA-
TION CULTURELLE ENTRE LE JAPON
ET LA BULGARIE.**

Le Gouvernement Impérial du Japon et le Gouvernement Royal de Bulgarie,

Voulant confirmer et consolider par un acte solennel les liens d'amitié qui existent si heureusement entre les deux pays ;

Également animés du désir de développer les rapports culturels des deux pays et d'approfondir ainsi la compréhension mutuelle des deux peuples ;

Sont convenus des dispositions suivantes :

Article Premier.

Les deux Gouvernements constatent et confirment les relations d'amitié et de confiance mutuelle qui existent entre les deux pays.

Article 2.

Les deux Gouvernements développeront, dans la mesure du possible, le rapprochement culturel entre les deux pays et s'y assureront leur collaboration la plus étroite.

Article 3.

La présente Convention entrera en vigueur dès sa signature. Elle aura une durée de dix ans. Elle sera prorogée par tacite reconduction d'année en année à moins que l'un des deux Gou-

極
秘

CONVENTION D'AMITIÉ ET DE COLLABORA-
TION CULTURELLE ENTRE LE JAPON
ET LA BULGARIE.

IMT 678

110

秘

昭和十八年二月

参照

「ブルガリア」國概観

外

務

省

IMT 678

111

目次

一	「ブルガリア」國ノ獨立	一
二	面積及人口	一
三	言語、宗教及教育	二
四	産業	三
五	貿易	五
六	財政	七
七	内政	八
八	軍事	九
九	外交	九

一 「ブルガリア」國ノ獨立

「ツラン」系ノ一族タル「ブルガリア」人ハ西曆五、六世紀頃「
ヴォルガ」地方ヨリ移住シテ現在ノ「ブ」國ノ地方ニ入り次第ニ
先住民ヲ壓倒征服シ七世紀ニ至リテ「ブルガリア」國ヲ組織シタ
ルガ一三六六年「トルコ」ノ屬國ト爲リ一三九三年同國ニ併合セ
ラレタリ然ルニ「トルコ」ノ壓政ノ爲「ブルガリア」ハ嘗ニ獨立
ノ機會ヲ待チ就中十九世紀ニ入りテハ農民ガ主体ト爲リ獨立運動
ヲ續ケ一八七七年露土戰爭ニ際シ帝政露國ノ支持ノ下ニ幾分政治
的獨立ヲ得一八七八年「ベルリン」條約ニ於テ「トルコ」ノ主權
ノ下ニ自治ヲ有スル公國トシテ承認セラレタルガ一九〇八年「フ
エルデナンド」公ノ下ニ「トルコ」ヨリノ獨立ヲ宣言シ翌年列國
ヨリ之ガ承認ヲ受クルニ至レリ

ニ 面積及人口

現在ニ於ケル「ブルガリア」國ノ面積ハ一一〇、八四二平方千米

一九四〇年九月「ルーマニア」ヨリ南「ドブルジャ」ノ割譲ヲ受
ケタル結果七、六九六平方呎ノ面積増加ヲ見タリナリ

「ブルガリア」國ノ人口ハ一九三四年十二月ノ國勢調査ニ依レバ
六、〇七七、九三九人ニシテ内男三、〇五三、八九三人、女三、
〇二四、〇四六人ナリシ處南「ドブルジャ」獲得後四二六、〇〇
〇人ノ増加ヲ見タリ（首都「ソフィア」ノ人口二八七、〇九五
人ナリ）人口ヲ人種別ニ見ルニ一九二六年ノ國勢調査ニ依レバ「ブ
ルガリア」人四、四五五、三五五人（全人口約八〇「パーセント」）
「スラヴ」人一二八、七四七人、「トルコ」人五七七、五二二人
其ノ他若干ナリシ處南「ドブルジャ」ヲ得タル結果一五七、〇〇
〇人ノ「ブルガリア」人ヲ増加スルニ至レリ

言語、宗教及教育

「ブルガリア」語ハ「スラヴ」語系ニ酷似シ「ロシア」語ヲ解ス
ル者ハ良ク其ノ新聞及會話等ヲ解シ得ベシ

宗教ハ「ギリシア」正教ヲ以テ國教トスルモ諸種ノ宗派アリ一九
三四年ノ國勢調査ニ依レバ「ブルガリア」ニ於ケル「ギリシア」
正教徒五、一二八、八九〇人、同教徒八二一、二九八人、「カト
リック」教徒四五、七〇四人、「プロテスタント」教徒八、三七一人
猶太教徒四八、三九八人、「アルメニア、グレゴリアン」教徒二
三、四七六人其ノ他一、七五七人ト爲リ居レリ
男女七才ヨリ十四才迄義務教育ニ服スル處一九三四年ノ國勢調査
ニ依レバ男子ノ二〇、四%女子ノ四二、八%ハ無學ナリ

四 産業

(1) 「ブルガリア」國住民ノ大部分(人口ノ約八割)ハ農業ニ従事
シ居ル處他ノ「ヨーロッパ」諸國ニ比シ一人當リ耕作面積少ク
(一乃至六「エーカー」)僅「ヘクタール」當リ收穫高モ低キ
爲農民ノ收入極メテ少シ諸穀物ハ耕作面積ノ約七割ヲ占メ居レ
ルガ近來「ヨーロッパ」市場ノ需要ヲモ考ヘ特ニ煙草、果實(

葡萄、莓等)、野菜、油性植物、織物原料等ノ栽培並ニ果實及野菜ノ加工業ニ重點ヲ置キ居レリ

一 穀農産物ノ收穫高ハ一九四〇年ハ平年作ノ一五%減、一九四一年ハ約二〇%減ト見ラレ一九四二年ノ收穫ハ春季寒冷ナリシト「ダニユーブル」ノ氾濫トニ依リ收穫成績不良等ノ理由ニ依リ大體一九四一年同様ト認メラル(一昨年度收穫約三三〇萬噸平年作ハ約四〇〇萬噸)

(ロ) 工業ハ未ダ甚シキ發達ヲ見ザルガ政府ハ工業企業ヲ獎勵シ補助金ヲ與ヘ居レリ

以 鑛 業

鑛業ノ發達ハ極メテ遲レ居ルモ國內ニ石炭多ク一九三七年ニ於ケル産額一、八五二、五四四噸ナリ石炭ノ外「アルミニウム」三、五四八噸塩九、七四五噸ノ産額アリ其ノ他銅、「クロム」滿庵ノ錫等存スト認メラレ居ルモ地下資源充分ニ開發セラレズ

石油ノ如キハ全然輸入ニ仰ギ居レリ

貿易

「ブルガリア」ハ元來輸出超過ナリシ處一九四一年ニ於テ著シキ輸入超過ニ變ゼリ右ハ主トシテ「ドイツ」ヨリノ機械器具（殊ニ武器）、金屬及其ノ製品、各種車輛等ノ輸入増加セルト常態ニ於テハ輸出ト爲ルベキ食糧等ガ「ブルガリア」國內駐屯獨軍ニ供給セラレタル爲輸出セラレザリセニ依ルモノナリ

近年ノ輸出入左ノ通

輸入高	單位百萬「レバ」	輸出高	（單位 同）
一九三九年	（三八九千噸）	三一九六	（五四三）
一九四〇年	（三七一千噸）	七〇二八	（九九一）
一九四一年	（四五八千噸）	二〇二三八	（四五九）

右輸出入ノ内對獨輸出入ノ比率左ノ通

年	輸入	輸出
一九三九年	六六%	六八%
一九四〇年	六六%	五九%
一九四一年	七九%	六八%

「ブルガリア」ト「ドイツ」トハ地理的ニ接近シ居ルノミナラズ
 一ハ工業國他ハ農業國ニシテ相互ニ相補足スル關係ニ在ルヲ以テ
 其ノ經濟關係ハ戰爭勃發後ニ於テ特ニ緊密ヲ加ヘツツアリ右ハ「
 ブ」國ガ歐洲新秩序建設參加國タル當然ノ結果ニシテ今ヤ兩國ノ
 經濟關係ハ何人モ動カシ得ザル程強固ト爲レリ、兩國ハ年二回協
 議ノ上協定ヲ結ビ相互ニ供給スベキ物資ノ種目、數量、金額等ヲ
 定メ居レリ一九三八乃至一九三九年「ブ」國ノ對獨貿易ハ輸出超
 過ナリシガ一九四〇年以來輸入超過ニ變ジタリ對獨輸出ノ八〇%
 ハ農産品ニシテ煙草ヲ第一トシ葡萄酒、果物、野菜（主トシテ半加
 工）等之ニ次ギ「ドイツ」ヨリノ輸入品ハ機械器具及金屬類、鐵
 鋼、車輛等ナリトス

六 財 政

(1) 豫算

通常歳出入豫算追加豫算合計

一九四〇年 約二〇〇億「レバ」

一九四一年 約二〇〇億

一九四二年 約一八〇億

一九四二年度ハ追加豫算約五〇億「レバ」計上セラレタリ

豫算總額ハ累年増加シツツアルモ一九三八年度以降多少歳入超

過ナリ

(2) 國民所得ハ近年大体年七五〇億「レバ」乃至一〇〇〇億「レバ」

ナリ現在内外國債約三〇〇億「レバ」外ニ國家保障債務約八〇

億「レバ」アリ

尙國民所得ノ二六%ハ諸租税、一〇%ハ貯蓄、六四%ハ消費及

手持金ナリ

(3) 銀行預金及郵便貯金ハ一九四一年三月一七六億「レバ」一九四

二年三月二 八億「レバ」

國立銀行券流通高左ノ通（單位百萬「レバ」）

一九三九年十一月末 六四六七

一九四〇年十二月末 六五二八

一九四一年六月末 八七二三

一九四二年四月末 一三四六七

一九四二年四月末 一三六八五

銀行券發行高ノ増加ニ伴ヒ對獨債權（「ライヒスマルク」）ノ準備金ニ繰入レ以テ其ノ比率低下ノ防止ヲ圖リ居レリ

内政

「ブルガリア」國ハ立憲君主政體ナリ

(イ) 行政 行政權ハ國王ニ依リテ任命セラルル内閣之ヲ執行ス

(ロ) 立法 立法權ハ一八七九年ノ憲法ニ依リ「ソブラ」ニ「ト」稱

スル一院制ノ國會ニ與ヘラル一九三七年ノ新選舉法ニ依レバ國

會ノ議席ハ一六〇ニシテ各選舉區ハ少クトモ二〇、〇〇〇ノ選舉民ヲ有スルヲ必要トス選舉權ハ二十一才以上ノ男子及二十一才以上ノ既婚女子之ヲ有シ被選舉權者ハ三十才以上タルヲ要ス

(ハ) 司法 區裁判所、地方裁判所、控訴院及大審院ヲ有ス區裁判所ハ最下級ニシテ民事刑事ノ小事件ノ裁判權ヲ有ス地方裁判所ハ第一審裁判所ニシテ死刑及一般刑ノ判決ヲ下ス權能ヲ有ス

ハ 軍事

「ソフィア」、「プロヴディフ」及「ルツセ」ニ控訴院アリ最高裁判所ハ「ソフィア」ニ在ル大審院ニシテ十二名ノ判事ヨリ成ル

一九一九年「ヌイイー」條約ニ依リ兵力二萬以下ニ制限セラレタルモ右制限ハ一九三八年「バルカン」協商諸國トノ條約ニ依リ撤廢セラレ一九四〇年以來十七才ヨリ六十五才迄ノ男子ニ對シ兵役義務課セラルルニ至レリ

9 九 外 交

(4) 「ブルガリア」ハ第一「バルカン」戦役ニ於テ他ノ「バルカン」諸國ト同盟シ「トルコ」ヲ歐洲ヨリ驅逐スルコトニ成功セルガ、其ノ後「トルコ」ヨリ占領セル領土ノ分配ニツキ内紛ヲ生ジ他ノ「バルカン」諸國ト戦端ヲ開キ、敗退シ、結局ニ於テ「マセドニア」ノ一部ヲ得タルニ過ギズ世界大戦ニ於テ獨逸側ニ立チ大敗シ一九一九年ノ「ヌイイー」條約ニ依リ國ノ重要ナル部分ヲ割讓スルノ已ムナキニ至レリ昭和十四年九月歐洲戦争勃發スルヤ「ブル」國ハ當初戦局ノ進展ニ便乗シツツ自國ノ強大ヲ計ラントノ意圖ノ下ニ極力戦争ノ圏外ニ立タント努メ來リタルガ戦争ノ影響漸次「バルカン」ニ波及シ獨逸ノ勢力滲透ヲ見ルニ及ビ逐次兩國ニ接近ノ態度ヲ示スコトト爲リタリ昭和十五年九月獨逸兩國ノ斡旋ニ依リ「ルーマニア」ヨリ南「ドブルジャ」地方ノ割讓ヲ受ケタルガ其ノ後同年十月獨逸「ルーマニア」へ平和進駐ヲ實行スルヤ同國ハ愈々樞軸側ニ参加ノ旗幟ヲ鮮明ニス

ルニ至リ其ノ後昭和十六年三月一日三國條約ニ參加シ同日ヲ以テ獨軍同國ニ平和進駐ヲ爲スコトト爲リタリ次デ同年四月六日「ドイツ」ガ舊「ユーゴスラヴィア」國ト交戦スルヤ「ブルガリア」國軍ハ「マセドニア」ノ「スコピエ」「ブリレブ」「ピトリア」各州ヲ含ム地方ニ進駐シ獨軍更ニ「ギリシア」ニ向フヤ西「トラキア」地方ニ進駐シ次デ同年五月右進駐地域ヲ自國ノ行政下ニ置クニ至リタリ

(ロ) 昭和十六年六月獨蘇戰爭勃發スルヤ「ブルガリア」ハ一方「ドイツ」ノ同盟國タルノミナラズ「ソ」聯邦ニ對シテハ「ブ」國成立ノ歴史竝ニ民族的關係ヨリ國民的ナル親露感情ヲ有シ居ル點アリテ極メテ機微ナル立場ニ置カレタルガ獨ハ「ブ」ヲ必ズシモ強制シテ「ハンガリー」「ルーマニア」「スロヴァキア」「クロアチア」ノ諸國ノ如ク「ソ」ニ出兵セシムルコトヲ爲サズ「バルカン」内特ニ「セルビア」方面ノ治安ニ任ゼシムルコ

トト爲シ居ル狀況ナリ

(イ) 大東亞戰爭勃發スルヤ「ブルガリア」ハ昭和十六年十二月十二日米英ト斷交シ兩國ニ對シ戰爭狀態ノ宣言ヲ爲スコトトナリタルガ「ソ」聯トハ依然トシテ相互ニ公使ヲ交換シ居レリ

(ニ) 尙日本「ブルガリア」國交上特記スベキ事項左ノ如シ

昭和十四年十二月四日 帝國「ソフィア」ニ公使館ヲ開設ス

昭和十六年 三月一日 「ブルガリア」三國條約ニ參加ス

同 年 五月十三日 「ブルガリア」滿洲國ヲ承認ス

同 年 七月一日 「ブルガリア」南京政府ヲ承認ス

同 年 十二月十二日 「ブルガリア」米英ニ對シ戰爭狀態ヲ

宣言ス

昭和十七年 三月一日 「ソフィア」ニ於テ日本「ブルガリア」

協會發會式舉行セラル

昭和十八年 一月三十日 東京ニ於テ日本「ブルガリア」協會發

會式舉行セラル

(了)

濟外 甲 一四

昭和十八年二月十日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

商工大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

逓信大臣

鈴木國務大臣

大藏大臣

文部大臣

鐵道大臣

安藤國務大臣

陸軍大臣

農林大臣

厚生大臣

別紙外務大臣請議友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約公布方請議ノ件

十八年二月十日
十八年二月十五日

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
條約公布ノコトニ閣議決定セラレ可然ト認ム

條約公布案

呈案ノ通

秘

法制局外第一一號

昭和十八年二月六日

主任者、條約局第一課長

條一祕第七二號

昭和十八年二月五日

外務大臣 谷 正

內閣總理大臣 東 條 英 機 殿



友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國
間條約公布方請議ノ件

友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約近ク署
名ノ運ト相成ルベク候ニ付テハ右署名濟ノ節ハ官報ヲ以テ公布方
可然御取計相成度別紙公布案相添へ此段及請議候也

追テ署名濟ノ節ハ其ノ旨署名ノ月日、署名振等ト共ニ直ニ通報

外甲一四

外務省

ニ及ブベク候

尙公布案文書左ノ通添附致置候

一上諭文案

二部

ニ友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約日

五部

本文

外務省

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ裁可シ昭和十八年二月十一日東京
ニ於テ帝國外務大臣ガ「ブルガリア」國代表者ト共ニ署名調印シ
タル友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約ヲ
茲ニ公布セシム

御名御璽

昭和十八年二月十三日

內閣總理大臣
外務大臣

外務省

條約第 號

友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約

大日本帝國政府及「ブルガリア」王國政府ハ

幸ニ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ嚴肅ナル文書ニ依リテ確認シ且之ヲ強固ナラシメンコトヲ欲シ
兩國ノ文化關係ヲ増進セシメ且之ニ依リ兩國國民ノ相互的理解ヲ深カラシムルノ希望ニ均シク促サ
レ
左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

兩國政府ハ兩國間ニ存在スル友好及相互の信頼ノ關係ヲ茲ニ再確認ス

第二條

兩國政府ハ兩國ノ文化關係ヲ能フ限り増進スベク之ガ爲最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルベク且十年間有效トス本條約ハ兩國政府ノ一方ガ本條約滿了ノ六月
前之ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セザル限り暗黙ノ更新ニ依リ一年ヅツ延長セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

二

昭和十八年 月 日 即チ千九百四十三年 月 日
ニ於テ本書ニ通テ作成ス

條一祕第八四號

昭和十八年二月十二日

外務次官 松本俊

内閣書記官長 星野直樹殿



友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」
國間條約公布方ニ關スル件

本件ニ關シテハ谷外務大臣ヨリ東條内閣總理大臣宛本月五日附條
一祕第七十二號ヲ以テ申進ノ次第アリタル處本件條約ハ本月十一
日署名ヲ了シタルニ付十五日附官報ヲ以テ公布方御取計相成度尙
前記往信添附ノ案文日本文ノ日附、署名振等左記ノ通記入方御取
計相成度記入濟ノモノ三部別添ノ通及御送付候

記

外甲 一四房

外務省

昭和十八年二月十一日即チ千九百四十三年二月十一日東京ニ於テ
本書二通ヲ作成ス

谷 正之(印)

ヤンコ、ベエフ(印)

外
務
省

(日本標準規格B5)

IMT 678

133

條約第六號

友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約

大日本帝國政府及「ブルガリア」王國政府ハ

幸ニ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ嚴肅ナル文書ニ依リテ確認シ且之ヲ強固ナラシメンコトヲ欲シ

兩國ノ文化關係ヲ増進セシメ且之ニ依リ兩國國民ノ相互的理解ヲ深カラシムルノ希望ニ均シク促サ

左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

兩國政府ハ兩國間ニ存在スル友好及相互の信頼ノ關係ヲ茲ニ再確認ス

第二條

兩國政府ハ兩國ノ文化關係ヲ能ク限リ増進スベク之ガ爲最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セラレベク且十年間有效トス本條約ハ兩國政府ノ一方ガ本條約満了ノ六月前之ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セザル限リ暗黙ノ更新ニ依リ一年ヅツ延長セラレベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年三月十一日即チ千九百四十三年二月十一日東京ニ於テ本書ニ通テ作成ス

二

谷 正 之 (印)

ヤンコペエフ (印)

濟



日本國ソヴェエト社會主義共和國聯邦間漁業
條約ノ效力延長ニ關スル議定書承認ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年四月六日

内閣總理大臣東條英機



外甲第一九號

案起 昭和十八年三月五日

閣議 昭和十八年四月六日 施行

昭和十八年四月六日

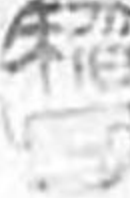
內閣總理大臣



內閣書記官長



內閣書記官



外務大臣



海軍大臣



商工大臣



大東亞大臣



內務大臣



司法大臣



遞信大臣



陸軍大臣



大藏大臣



文部大臣



鐵道大臣



農林大臣



陸軍大臣



農林大臣



厚生大臣



日本國ソヴェエト社會主義共和國聯邦

間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定
書承認ノ件

右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付ニ付同
院上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ然ルベシ
ト認ム

指令案

日本國「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間
漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書承認
ノ件上奏ノ通裁可ヲ經タリ

御覽濟

臣等日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯
邦間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書
承認ノ件諮詢ノ命ヲ恪ニ本月三十一日ヲ
以テ審議ヲ盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上
奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年三月三十一日

樞密院議長臣

原嘉道

極秘

日本國「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間
漁業條約ノ第八回效力延長ニ關スル議定書

議定書

千九百二十八年一月二十三日署名セラレ、千九百三十六年五月二十五日、同年十二月二十八日、千九百三十七年十二月二十九日、千九百三十九年四月二日、同年十二月三十一日、千九百四十一年二月二十日及千九百四十二年三月二十日夫々署名セラレタル議定書ニ依リ效力延長セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ存續期間ハ千九百四十二年十二月三十一日滿了シタルニ因リ又

千九百四十二年十二月三十一日前ニ新條約締結セラレザリシニ因リ

大日本帝國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府ハ左ノ通協定セリ

第一條

千九百二十八年一月二十三日署名セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約及一切ノ附屬文書ハ千九百四十三年十二月三十一日ニ至ル迄效力ヲ存續ス

第二條

本議定書ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府間ニ目下交渉中ニシテ千九百四十三年中ニ締結セラルベキ新條約ニ依リ代ラルベキモノトス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名セリ

昭
和
十
八
年
三
月
二
十
五
日
即
チ
千
九
百
四
十
三
年
三
月
二
十
五
日
「
ク
イ
ブ
イ
シ
エ
フ
」
市
ニ
於
テ
本
書
ニ
通
テ
作
成
ス

政府ノ承認ヲ條件トシテ

佐 藤 尙 武

エス、アー、ロゾフスキー

In witness whereof the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed the present Protocol.

Done in duplicate in the City of Kuibyshev on the 25th day of the 3rd month of the 18th year of Syōwa, corresponding to March 25th, 1948.

Naotake Sato *ad referendum*

S. A. Lozovsky

PROTOCOL.

Whereas the term of duration of the Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, signed on January 23rd, 1928, and prolonged by the Protocols signed, respectively, on May 25th, 1936, on December 28th of the same year, on December 29th, 1937, on April 2nd, 1939, on December 31st of the same year, on January 20th, 1941 and on March 20th, 1942, came to an end on December 31st, 1942; and

Whereas a new Convention had not been concluded before December 31st, 1942;

The Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics have agreed upon the following articles:

ARTICLE 1.

The Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics as well as all the documents annexed thereto, signed on January 23rd, 1928, remain in force until December 31st, 1943.

ARTICLE 2.

The present Protocol shall be replaced by a new Convention, which is now under negotiation between the Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics and which will be concluded in the course of the year 1943.

極
秘

PROTOCOL

CONCERNING THE EIGHTH PROLONGATION
OF THE DURATION OF THE FISHERY
CONVENTION BETWEEN JAPAN
AND THE UNION OF SOVIET
SOCIALIST REPUBLICS.

外甲一九 御覽濟内閣へ御下付

昭和十八年三月二十六日

昭和十八年三月二十六日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

西

五

商工大臣

五

大東亞大臣

五

内務大臣

司法大臣

春

下

遞信大臣

五

鈴木國務大臣

五

大藏大臣

文部大臣

興

五

鐵道大臣

五

安藤國務大臣

五

陸軍大臣

農林大臣

五

五

厚生大臣

五

五

別紙外務大臣請議日本國ソヴェエト社會主義共和國聯邦間
漁業條約、效力延長・關スル議定書承認方御裁可奏請、件

法 司

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

追テ本件ハ樞密院官制第六條第六號

ニ依リ樞密院ニ御諮詢相成可然ト認

ム

極秘

法制局

法制局外第一四號

昭和十八年三月廿六日

主任者、條約局第一課長

條一極秘第一四六號

昭和十八年三月二十六日

外務大臣 谷 正 之

內閣總理大臣 東 條 英 機 殿



日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間
漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書承認方御
裁可奏請ノ件

昭和三年一月二十三日「モスコ」ニ於テ署名セラレタル日本國
「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ハ昭和十一年以來
毎年其ノ效力延長セラレ昭和十七年三月二十日署名ノ第七回效力
延長ニ關スル議定書ニ依リ昭和十七年十二月三十一日迄其ノ效力

外甲 一九

外 務 省

ヲ存續スルモノトセラレタル處同議定書第二條ノ新條約締結セラレザリシニ依リ更ニ一年ノ效力延長方ニ付「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ト商議中ナリシ處今般兩者ノ意見一致シタルヲ以テ三月二十五日佐藤大使ヲシテ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦代表者トノ間ニ政府ノ承認ヲ條件トシテ別添議定書ニ署名セシメタリ

本件議定書ハ現下ノ内外情勢ニ鑑ミ日「ソ」漁業問題ノ解決ノ一日モ速ナルコトヲ希望シタルニ依リ之ガ署名ニ付事前ニ正規ノ國內手續ヲ履行スルノ違ナク曩ノ昭和十四年四月二日、同年十二月三十一日、昭和十六年一月二十日及昭和十七年三月二十日ノ議定

書ノ例ニ依リ出先使臣ヲシテ政府ノ承認ヲ條件トシテ署名セシム
ルノ措置ヲ執リタルモノナルニ付テハ本件議定書承認ノ件御裁可
奏請方至急可然御取計相成度別紙上奏案相添へ此段及請議候也
追テ前記議定書日本文「イギリス」文各五部添附致置候

日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ效力延長
ニ關スル議定書承認ノ件御裁可アラセラレ候様仕度此段謹テ奏ス
昭和十八年三月二十六日

外務大臣 谷

正

之



外務省

議定書

千九百二十八年一月二十三日署名セラレ、千九百三十六年五月二十五日、同年十二月二十八日、千九百三十七年十二月二十九日、千九百三十九年四月二日、同年十二月三十一日、千九百四十一年一月二十日及千九百四十二年三月二十日夫々署名セラレタル議定書ニ依リ效力延長セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ存續期間ハ千九百四十二年十二月三十一日滿了シタルニ因リ又

千九百四十二年十二月三十一日前ニ新條約締結セラレザリシニ因リ

大日本帝國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府ハ左ノ通協定セリ

第一條

千九百二十八年一月二十三日署名セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約及一切ノ附屬文書ハ千九百四十三年十二月三十一日ニ至ル迄效力ヲ存續ス

第二條

本議定書ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府間ニ目下交渉中ニシテ千九百四十三年中ニ締結セラレベキ新條約ニ依リ代ラルベキモノトス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名セリ

昭和十八年三月二十五日即チ千九百四十三年三月二十五日「クイブイシエフ」市ニ於テ本書ニ通テ作成
ス

政府ノ承認ヲ條件トシテ

佐藤 尙武

エス、アー、ロゾフスキー

第三目 判任俸給		第三目 判任俸給								
		第十二節 外交官補	第十三節 領事官補	第十四節 司法總領事	第十五節 司法領事	第十六節 司法副領事	第十七節 調査官	第十八節 海務官	第十九節 技師	合 計
第一節 書記生及通譯生	三二 二三 一三	八	七	二	二七	二	五五 三四	四	六五	五一 一三
	一、〇〇 二八 〇〇	一八〇〇	一、八〇〇	三六〇〇	三、〇〇 〇四 〇〇	二、四〇〇	三、三〇 〇六 〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
	五七九、〇六〇	一四、四〇〇	一二、六〇〇	七、二〇〇	五六、一八〇	三、六〇〇	三四〇、四四〇	一、二、〇〇〇	一九四、二五〇	一、五〇四、三七〇
					内二人ハ九ヶ月分				内一人ハ九ヶ月分	

第二節 電信書記生	第三節 司法書記生	第四節 海務官補	第五節 技手	合計
一八三	三一二	二	一〇一	七一
一、〇〇二 〇〇〇	一、〇〇二 〇〇〇	一、〇〇八 〇〇〇	一、〇〇八 〇〇〇	
二一、六〇〇	三三、二四〇	二、一六〇	一〇、六九二	七四、二九八
	内二人ハ九ヶ月分		内八人ハ九ヶ月分	

參照

昭和十八年度大東亞省所管追加豫算

歲出經常部

第二款 在外公館

第二項 俸給

第一目 勅任俸給

第十一節 副領事	第十節 電信官	第六節 領事	第五節 總領事	第二目 奏任俸給		合計	人員	一人年額	合金額	備考
				一	一					
八	一	一四	一	三、六〇〇	二、七〇〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	內二人八九ヶ月分
二、四〇〇	二、四〇〇	三、〇〇〇	三、六〇〇	二、四〇〇	二、七〇〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	
二、四〇〇	二、四〇〇	三、〇〇〇	三、六〇〇	二、四〇〇	二、七〇〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	
一、九二〇	二、四〇〇	四〇、五〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、七〇〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	四、六五〇	

第三目

判任俸給

			第十二節 外交官補			第十三節 領事官補		
合	計		合	計		合	計	
第一節 書記生及通譯生	四四	一、〇八〇	四六一七〇	分内五人ハ九月		第十二節 外交官補	一	一、八〇〇
第二節 電信書記生	五	一、〇八〇	五四〇〇			第十三節 領事官補	一	一、八〇〇
合計	四九		五一、五七〇			合計	二六	六八、四〇〇

參照

昭和十八年度大東亞省所管豫算

歲出經常部

第三款 在外國居留民保護取締費

第一項 俸給

第一目 奏任俸給

節	人員	一人年額	合金額	備考
第四節 警				
視	一六二	二七六〇 二七七〇	四九八四〇	

In witness whereof the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed the present Protocol.

Done in duplicate in the City of Kuibyshev on the 25th day of the 3rd month of the 18th year of Syōwa, corresponding to March 25th, 1948.

Naotake Sato *ad referendum*

S. A. Lozovsky

PROTOCOL

Whereas the term of duration of the Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, signed on January 23rd, 1928, and prolonged by the Protocols signed, respectively, on May 25th, 1936, on December 28th of the same year, on December 29th, 1937, on April 2nd, 1939, on December 31st of the same year, on January 20th, 1941 and on March 20th, 1942, came to an end on December 31st, 1942; and

Whereas a new Convention had not been concluded before December 31st, 1942;

The Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics have agreed upon the following articles:

ARTICLE 1.

The Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics as well as all the documents annexed thereto, signed on January 23rd, 1928, remain in force until December 31st, 1943.

ARTICLE 2.

The present Protocol shall be replaced by a new Convention, which is now under negotiation between the Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics and which will be concluded in the course of the year 1943.

一日本國ソヴイエト社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書承認ノ件
右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此致及通牒候也

昭和十八年三月三十一日

樞密院議長原嘉道

內閣總理大臣東條英機殿

臣等 日本國ソヴイエト社會主義共和國聯邦間
漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書承認ノ件
諮詢ノ命ヲ恪ミ本月三十一日ヲ以テ審議ヲ盡
シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十八年三月三十一日

樞密院議長 臣 原 嘉道

極
秘

日本國「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間
漁業條約ノ第八回效力延長ニ關スル議定書

議定書

千九百二十八年一月二十三日署名セラレ、千九百三十六年五月二十五日、同年十二月二十八日、千九百三十七年十二月二十九日、千九百三十九年四月二日、同年十二月三十一日、千九百四十一年一月二十日及千九百四十二年三月二十日夫々署名セラレタル議定書ニ依リ效力延長セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ存續期間ハ千九百四十二年十二月三十一日滿了シタルニ因リ又

千九百四十二年十二月三十一日前ニ新條約締結セラレザリシニ因リ

大日本帝國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府ハ左ノ通協定セリ

第一條

千九百二十八年一月二十三日署名セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約及一切ノ附屬文書ハ千九百四十三年十二月三十一日ニ至ル迄效力ヲ存續ス

第二條

本議定書ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府間ニ目下交渉中ニシテ千九百四十三年中ニ締結セラルベキ新條約ニ依リ代ラルベキモノトス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名セリ

昭和十八年三月二十五日即チ千九百四十三年三月二十五日「クイブイシニフ」市ニ於テ本書ニ通テ作成
ス

政府ノ承認ヲ條件トシテ

佐藤 尙武

エス、アー、ロゾフスキ

(昭和十八年三月二十五日

印刷)

IMT 678

161

08
(昭和十八年三月二十五日 印刷)

IMT 678

162

In witness whereof the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed the present Protocol.

Done in duplicate in the City of Klibyshev on the 25th day of the 3rd month of the 18th year of Syōwa, corresponding to March 25th, 1948.

Naotake Sato *ad referendum*

S. A. Lozovsky

In witness whereof the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed the present Protocol.

Done in duplicate in the City of Kalbyshev on the 25th day of the 3rd month of the 18th year of Syowa, corresponding to March 25th, 1948.

Naotake Sato *ad referendum*

S. A. Lozovsky

PROTOCOL.

Whereas the term of duration of the Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, signed on January 23rd, 1928, and prolonged by the Protocols signed, respectively, on May 25th, 1936, on December 28th of the same year, on December 29th, 1937, on April 2nd, 1939, on December 31st of the same year, on January 20th, 1941 and on March 20th, 1942, came to an end on December 31st, 1942; and

Whereas a new Convention had not been concluded before December 31st, 1942;

The Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics have agreed upon the following articles:

ARTICLE 1.

The Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics as well as all the documents annexed thereto, signed on January 23rd, 1928, remain in force until December 31st, 1943.

ARTICLE 2.

The present Protocol shall be replaced by a new Convention, which is now under negotiation between the Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics and which will be concluded in the course of the year 1943.

極
秘

PROTOCOL

CONCERNING THE EIGHTH PROLONGATION
OF THE DURATION OF THE FISHERY
CONVENTION BETWEEN JAPAN
AND THE UNION OF SOVIET
SOCIALIST REPUBLICS.

秘

日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦
間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議定書
承認ノ件審査報告

謹デ今回御諮詢ノ日本國「ソヴィエト」社會主義
共和國聯邦間漁業條約ノ效力延長ニ關スル議
定書承認ノ件ヲ審査スルニ昭和三年一月二十
三日署名セラレタル日ソ「兩國間漁業條約」ハ昭
和十一年五月二十七日ヲ以テ其ノ當初ノ有效
期間ノ滿了シタル以後改正條約成立セザル爲
爾來年々兩國間ニ締結セラレタル暫行取極ニ

依リ逐次其ノ期間ヲ延長セラレ昭和十七年十
二月末日迄其ノ效力ヲ持續シタリ而シテ同年
三月二十日署名セラレタル第七回效力延長ニ
關スル議定書ニ於テモ前回ノ議定書同様同年
中ニ新條約ヲ締結スベキ旨規定セラレ居ルヲ
以テ我方ニ於テハ前年ニ引續キ獨シ戰事勃發
後ニ於ケル事情ノ變化ニ應ジタル新條約案ヲ
ソ國側ニ提議シ之ガ交渉ヲ進メタルガ結局昭
和十七年内ニ新條約締結ノ見込ナキニ至レル
ニ由リ十二月下旬ソ國側ニ對シ右ノ交渉ヲ更

ニ本年ニ續行スルコトニ同意セシメタル上取
敢ズ前回同様ノ暫定取極ヲ締結セシコトヲ提
議シタリ然ルニソノ國側ハ之ガ回答ヲ遷延シ本
年二月下旬ニ至リ稍ク之ガ對案ヲ提示シ來リ
タルヲ以テ更ニ折衝ヲ重ネタル結果借區料等
ノ支拂ニ付必要ナル金塊ノ世界市場へノ現送
費トシテ支拂ハルベキ追加料金率ハ從前四分
ナリシヲ五分ト爲スコト、日本側ガ引續キ借受
ヲ希望スル滿期漁區ニ付テハ其ノ二十五漁區
中休營六漁區ヲ除キタル十九漁區ニ付日本側

注二

ニ於テ再競落スルニ困難ナカルベキ旨ノ口頭
聲明ヲ爲スコト及其ノ他ノ條件ハ前年通りト
スルコトニ雙方ノ意見一致シ爰ニ於テ兩國政
府ハハタビ暫行措置トシテ本件議定書ヲ作成
スルノ妥結ニ達シタリ而シテ右議定書ニ付テ
ハ我方ハ漁期ノ接近セルトシ「國側ガ他ノ問題
ト牽聯セシムルヲ避クル爲署名前ニ正規ノ國
内手續ヲ履行スルノ違ナカリシヲ以テ前例ニ
倣ヒ出先使臣ヲシテ政府ノ承認ヲ條件トシテ
之ニ署名セシメタリ仍テ帝國政府ハ茲ニ勅裁

ヲ仰ギテソ「國政府ニ對シ右議定書承認ノ旨ヲ
通告セントスルモノナリ

本件議定書ノ要旨ハ昭和三年一月二十三日署
名セラレ昭和十一年五月以降累次其ノ效力ヲ
延長セラレタル日ソ「兩國間漁業條約及其ノ一
切ノ附屬文書ガ引續キ更ニ本年十二月三十一
日迄效力ヲ保有スベキコト及本議定書ハ兩國
政府間ニ目下交渉中ニシテ本年中ニ締結セラ
ルベキ新條約ヲ以テ之ニ代フベキコトヲ協定
スルニ在リ

按ズルニ本件ハ日ソ兩國間漁業條約ノ改訂ガ
今尚妥結ニ達セザルニ由リ前例ヲ踏襲シ臨時
ノ措置トシテ現行條約ノ效力ヲ更ニ一年間延
長スル旨ノ暫行協定ヲ締結スル爲帝國政府代
表者が留保ヲ附シテ署名シタル取極ニ承認ヲ
與ヘントスルモノニシテ今回亦斯カル暫行措
置ヲ反覆セザルヲ得ザルハ洵ニ遺憾トスル所
ナルモ現下ノ事態ニ稽ヘ本件取極ノ締結ハ蓋
シ已ムヲ得ザルモノト認ムルノ外ナキニ由リ
本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料

ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十八年三月二十七日

樞密院書記官長堀江季雄

樞密院議長原嘉道殿

極
秘

日本國「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間
漁業條約ノ第八回效力延長ニ關スル議定書

議定書

千九百二十八年一月二十三日署名セラレ、千九百三十六年五月二十五日、同年十二月二十八日、千九百三十七年十二月二十九日、千九百三十九年四月二日、同年十二月三十一日、千九百四十一年一月二十日及千九百四十二年三月二十日夫々署名セラレタル議定書ニ依リ效力延長セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ存續期間ハ千九百四十二年十二月三十一日滿了シタルニ因リ又

千九百四十二年十二月三十一日前ニ新條約締結セラレザリシニ因リ

大日本帝國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府ハ左ノ通協定セリ

第一條

千九百二十八年一月二十三日署名セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約及一切ノ附屬文書ハ千九百四十三年十二月三十一日ニ至ル迄效力ヲ存續ス

第二條

本議定書ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ政府間ニ目下交渉中ニシテ千九百四十三年中ニ締結セラルベキ新條約ニ依リ代ラルベキモノトス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名セリ

昭和十八年三月二十五日即チ千九百四十三年三月二十五日「クイブイシエラ」市ニ於テ本書ニ通テ作成
ス

政府ノ承認ヲ條件トシテ

佐藤 尙武

エス、アー、ロゾフスキ

(昭和十八年三月二十五日 印刷)

INT 678

176

昭和十八年三月二十五日 印刷

IMT 678

177

In witness whereof the undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed the present Protocol.

Done in duplicate in the City of Kuibyshev on the 25th day of the 3rd month of the 18th year of Syōwa, corresponding to March 25th, 1948.

Naotake Sato *ad referendum*

S. A. Lozovsky

PROTOCOL.

Whereas the term of duration of the Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, signed on January 23rd, 1928, and prolonged by the Protocols signed, respectively, on May 25th, 1936, on December 28th of the same year, on December 29th, 1937, on April 2nd, 1939, on December 31st of the same year, on January 20th, 1941 and on March 20th, 1942, came to an end on December 31st, 1942; and

Whereas a new Convention had not been concluded before December 31st, 1942;

The Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics have agreed upon the following articles:

ARTICLE 1.

The Fishery Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics as well as all the documents annexed thereto, signed on January 23rd, 1928, remain in force until December 31st, 1943.

ARTICLE 2.

The present Protocol shall be replaced by a new Convention, which is now under negotiation between the Governments of Japan and the Union of Soviet Socialist Republics and which will be concluded in the course of the year 1943.

極
秘

PROTOCOL

CONCERNING THE EIGHTH PROLONGATION
OF THE DURATION OF THE FISHERY
CONVENTION BETWEEN JAPAN
AND THE UNION OF SOVIET
SOCIALIST REPUBLICS.

昭和十八年三月

參照

日本國「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間漁業
條約ノ第八回效力延長ニ關スル議定書ノ説明書

極秘

外

務

省

日本國「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間漁業
條約ノ第八回效力延長ニ關スル議定書ノ説明書

目次

一、本件議定書締結ノ交渉経緯……………	一頁
二、本件議定書ノ内容……………	二
三、本件議定書ト本年度邦人漁區經營ノ状態……………	三

日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ノ

第八回效力延長ニ關スル議定書ノ説明書

一、本件議定書締結ノ交渉経緯

昭和三年一月二十三日「モスコ」ニ於テ署名セラレタル日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間漁業條約ハ昭和十一年以來毎年其ノ效力延長セラレ昭和十七年三月二十日署名ノ第七回效力延長ニ關スル議定書ニ依リ昭和十七年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ存續スルモノトセラレタル處同議定書第二條ニハ同年中ニ新條約ヲ締結スベキ旨規定セラレ居ルヲ以テ我方ニ於テハ一昨年六月獨「ソ」戰爭勃發後發生セル事情ノ變化ニ應ジタル新條約案ヲ「ソ」側ニ提議シ交渉ヲ行ヒタルガ結局年内ニ新條約締結ノ見込ナキニ至レルニ依リ十二月下旬「ソ」側ニ對シ條約ノ交渉ハ本年モ續行方申入レ其ノ同意ヲ取付ケタル上不取敢一年有效ノ暫定取極締結方申入レタリ我方提案ノ大要ハ(一)昨年末借區契約ノ滿期ト爲レル二十五漁區ハ本年度ニ於テ競賣ニ付スルコトナク其ノ儘期限ヲ一年間延長スルコト(二)昭和十六年以來支拂ヒ居ル借區料及抵代税ノ二割追加拂入撤回スルコト(三)金塊現送ノ場合ニ於テ之ヲ世界市場ニ輸送スル費用トシテ金塊ニ對スル四分ノ追加支拂ヲ爲スコトヲ撤回スルコトノ三點ニ關スルモノナリシ處「ソ」側ハ回答ヲ遷延シ漸ク二月下旬ニ至リ(一)金現送費ヲ六分ニ増額スルコト及

(二) 滿期漁區中日本側ニ於テ最近引續キ數年間經營セザリシ十一漁區ニ對シ「ソ」側ニ於テ入札スルコトアルベシトノ二點ヲ除キ昨年度ト同様ノ案ヲ提示シ來リタリ依テ爾後右ノ二問題ニ付交渉行ハレタルガ結局金現送費ニ付テハ五分ノ追加支拂ヲ爲スコトニ意見ノ一致ヲ見又漁區ノ問題ニ付テハ日本側ノ希望スル漁區(二十五漁區中休營六漁區ヲ除キタル一九漁區)ヲ日本側ガ再競落スルニ困難ナカルベキ旨「ソ」側ニ於テ口頭聲明スルコトニ意見ノ一致ヲ見タルヲ以テ三月二十五日佐藤大使ハ「ロ」ゾフスキールトノ間ニ政府ノ承認ヲ條件トシテ本件議定書ニ署名シタリ

本件議定書ハ漁期近ヅキタルコト及「ソ」聯ガ他ノ問題ト牽聯セシムルヲ避クル爲事前ニ正規ノ國內手續ヲ履行スルノ違ナク旁昭和十四年四月二日、同年十二月三十一日、昭和十六年一月二十日及昭和十七年三月二十日ノ議定書ノ例ニ依リ出先使臣ヲシテ政府ノ承認ヲ條件トシテ署名セシムルノ措置ヲ執リタル次第ナリ

二、本件議定書ノ内容

本件議定書ノ内容ハ昭和十七年三月二十日署名ノ第七回效力延長ニ關スル議定書ニ必要ナル字句ノ修正ヲ加ヘタルノミニシテ前文ニ於テハ本議定書締結ノ理由ヲ明ニシ本文第一條ニ於テ日「ソ」漁業條